

「学生生活に関する意識調査」アンケート(2025)分析結果について

1. 目的

学生の興味関心を測り、大学コンソーシアムひょうご神戸の加盟校等が結果を共有し、加盟校等の教育改革や教育改善に生かすために実施。集計結果は、ひょうご産官学連携協議会にて報告し、今後の各加盟校における教育改革や教育改善に生かす。

2. 概要

(1) 調査対象者

加盟校34校の学生(学年は問わない)

(3) 実施期間

2025年5月19日(月)～ 2025年6月20日(金)

(2) 回答方法

PC、タブレット、スマートフォン等を使い、
URL(<https://forms.gle/JKWA3EsBdB9ek2JX6>)、
もしくは二次元コードから、回答フォーム(Google Forms)にアクセスして回答。回答者を特定できないように氏名の記入欄は設けず、また個人のメールアドレスの収集も行わない。

(4) 実施主体

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

(5) 内容

質問は、学生生活に期待することや、大学コンソーシアムひょうご神戸でやりたいこと、就職に関すること、単位互換制度についてなど計26問。所要時間は約10分

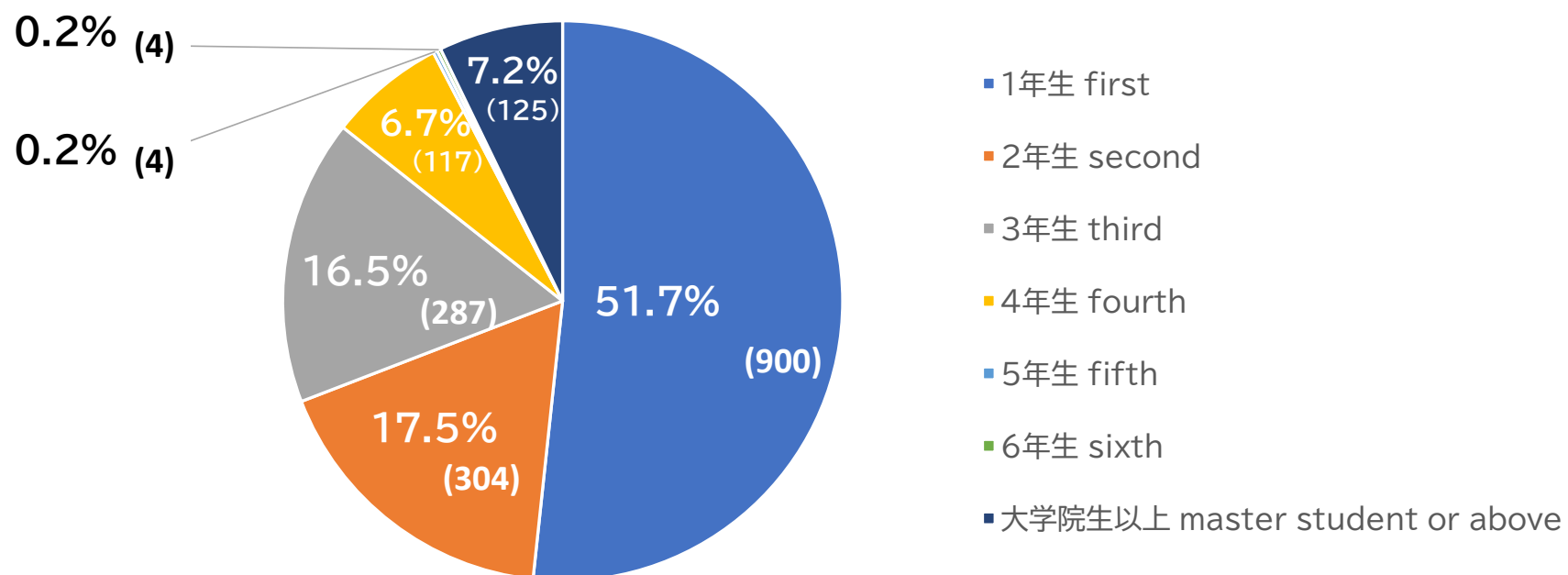
3. 結果

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校25校の学生計1,741人が回答

回答校一覧(25校)

芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市外国語大学、神戸市看護大学、神戸松蔭大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学、園田学園大学、流通科学大学

Q1 あなたは、何年生ですか。



Q2 通っている学校名を教えてください。

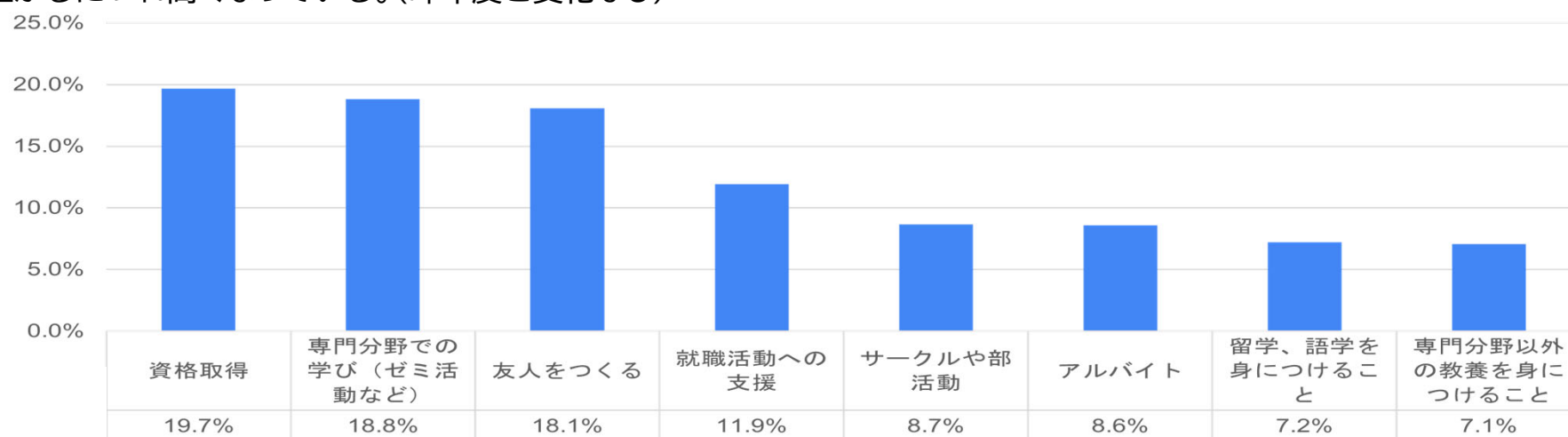
	学校名	回答数	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	大学院生以上
1	神戸学院大学	277	186	42	23	16	1	1	8
2	関西国際大学	207	130	29	35	7			6
3	大手前大学	168	24	63	63	16	1		1
4	大手前短期大学	159	132	24	2			1	
5	神戸親和大学	130	84	18	20	8			
6	神戸女学院大学	108	73	17	6	9			3
7	神戸常盤大学	98	57	18	12	11			
8	兵庫県立大学	91	43	10	9	7			22
9	流通科学大学	81	11	14	52	3			1
10	兵庫教育大学	80	14	14	8	3			41
11	甲南大学	63	26	10	13	11			3
12	神戸女子大学	55	42	4	7	1			1
13	神戸大学	54	12	7					35
14	神戸市外国語大学	53	29	8	10	5		1	
15	関西学院大学	40	23	6	8	1			2
16	神戸海星女学院大学	22	1		7	14			
17	神戸松蔭大学	13	2	2	5	3	1		
18	兵庫大学	13		10	1			1	1
19	甲南女子大学	11	4	3		2	1		1
20	神戸国際大学	6		2	4				
21	神戸女子短期大学	5	4	1					
22	芦屋大学	2		2					
23	園田学園大学	2	1		1				
24	兵庫大学短期大学部	2	2						
25	神戸市看護大学	1			1				
	計	1741	900	304	287	117	4	4	125

Q3 あなたが大学生活で期待することは何ですか。3つまで選んでください。

▼大学生活に期待することは、全体でみると「専門分野での学び」「資格取得」「友人をつくる」が特に高かった。

▼学年別でみると、1年生は「友人をつくる」「サークルや部活動」など交友関係が他の学年と比べて10%高い。

「専門分野での学び」は大学院生に至るまで学年が上がるにつれ高くなっている。「就職活動への支援」は3年生まで学年が上がるにつれ高くなっている。(昨年度と変化なし)



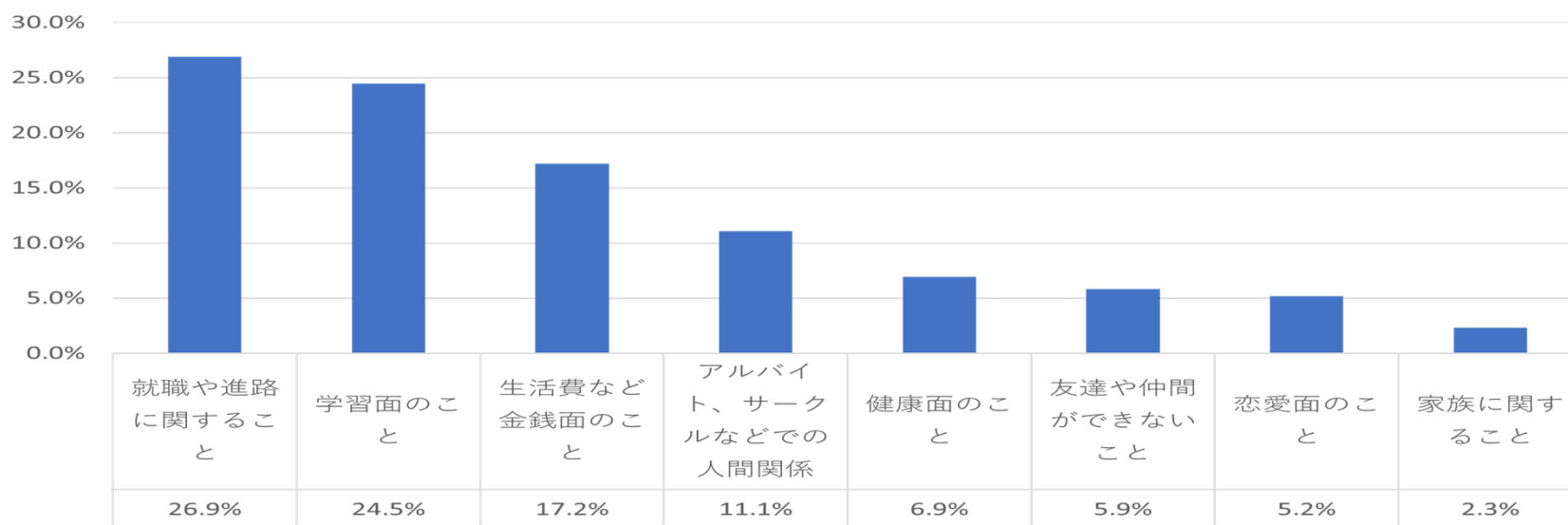
	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	大学院生
資格取得	5,142	2,701	930	831	325	12	11	332
専門分野での学び（ゼミ活動など）	1,011	575	186	151	46	2	1	50
友人をつくる	967	425	177	168	83	3	3	108
就職活動への支援	929	536	166	131	52		2	42
サークルや部活動	613	286	109	132	49	2	2	33
アルバイト	445	284	73	58	21			9
留学、語学を身につけること	441	250	83	62	32	2	1	11
専門分野以外の教養を身につけること	372	198	61	66	15		2	30
	364	147	75	63	27	3		49

Q4 大学生活での悩みや困っていることは何ですか。3つまで選んでください。

▼大学生活での困り事は、全体でみると「就職や進路」「学習面」「生活費など金銭面」が特に高い。

▼学年別でみると、「学習面」は1年生が最も高く、4年生にかけて学年があがるごとに低くなっていく。

「就職や進路」は大学院生・1年生が低く、3年生が最も高い。だが1年生の中でも555人が困っており、「学習面」に次いで2番目に困っているといえる。（昨年度と変化なし）

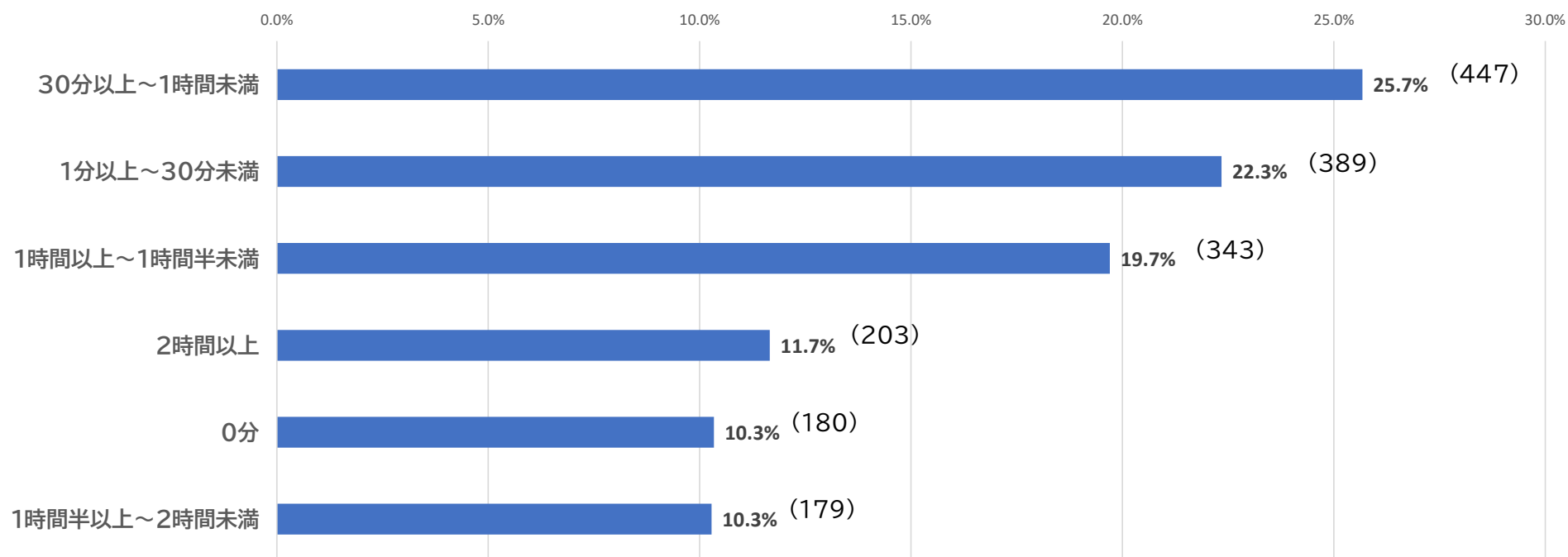


1年生	555	626	385	270	162	145	121	44
2年生	224	172	130	90	44	45	56	20
3年生	229	141	129	72	50	34	24	16
4年生	90	56	40	32	17	18	14	9
5年生	3	3	2		1	1		
6年生	2	1	3			1	1	2
大学院生以上	69	68	60	20	28	11	11	11

Q5 一日のうち、授業以外で勉強している時間を教えてください。

▼「30分以上～1時間未満」が最多。

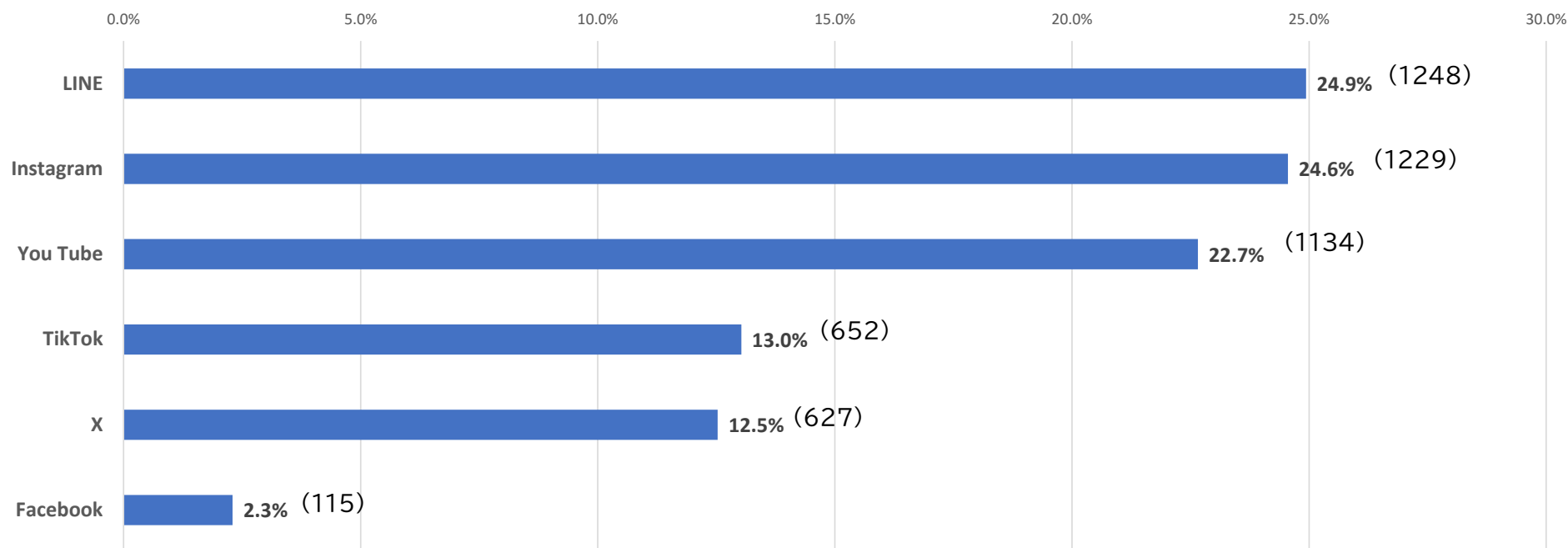
▼1時間前後が平均値。



Q6 よく利用するSNSを3つまで教えてください。

▼「LINE」が最多。

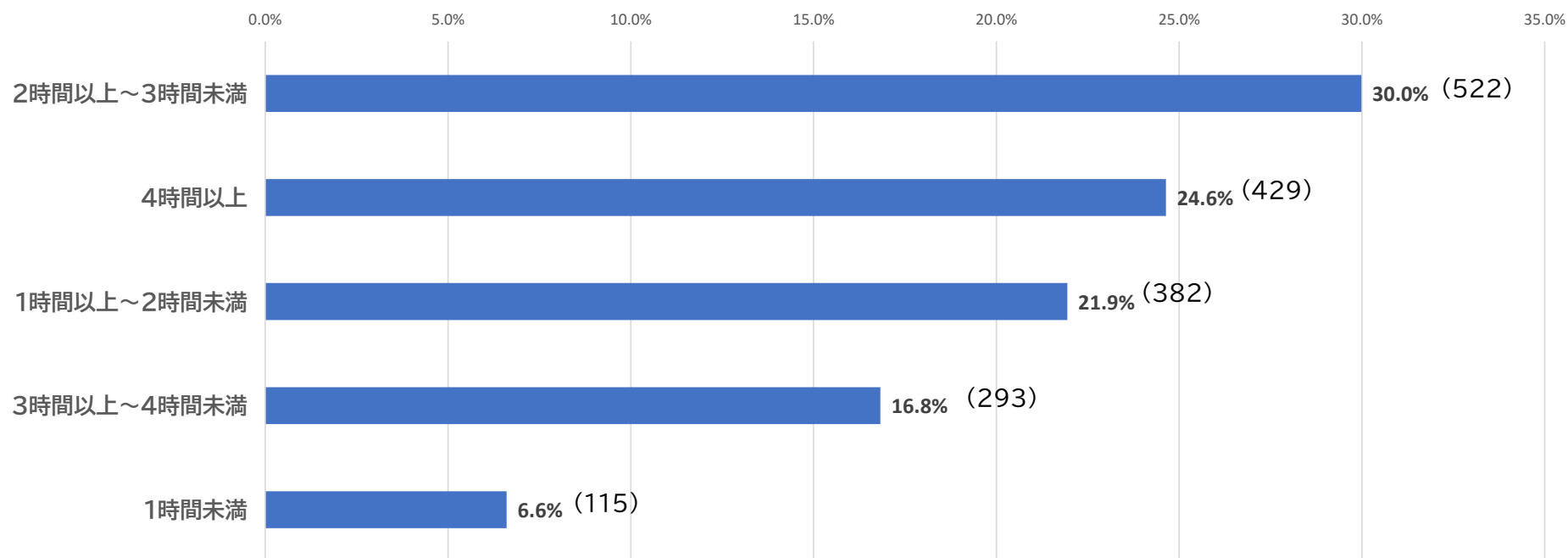
▼次点では、「Instagram」「Youtube」「TikTok」。動画を通したコミュニケーションも高いことがうかがえる。
(昨年度同様の順序ではあるが、「instagram」利用者が昨年度より増えている)



Q7 一日のうち、SNSを利用している時間を教えてください。

▼「2時間以上～3時間未満」が最多。

▼2時間前後が平均値。Q6の回答では、動画プラットフォームが多かったため、視聴時間が長くなることがうかがえる。

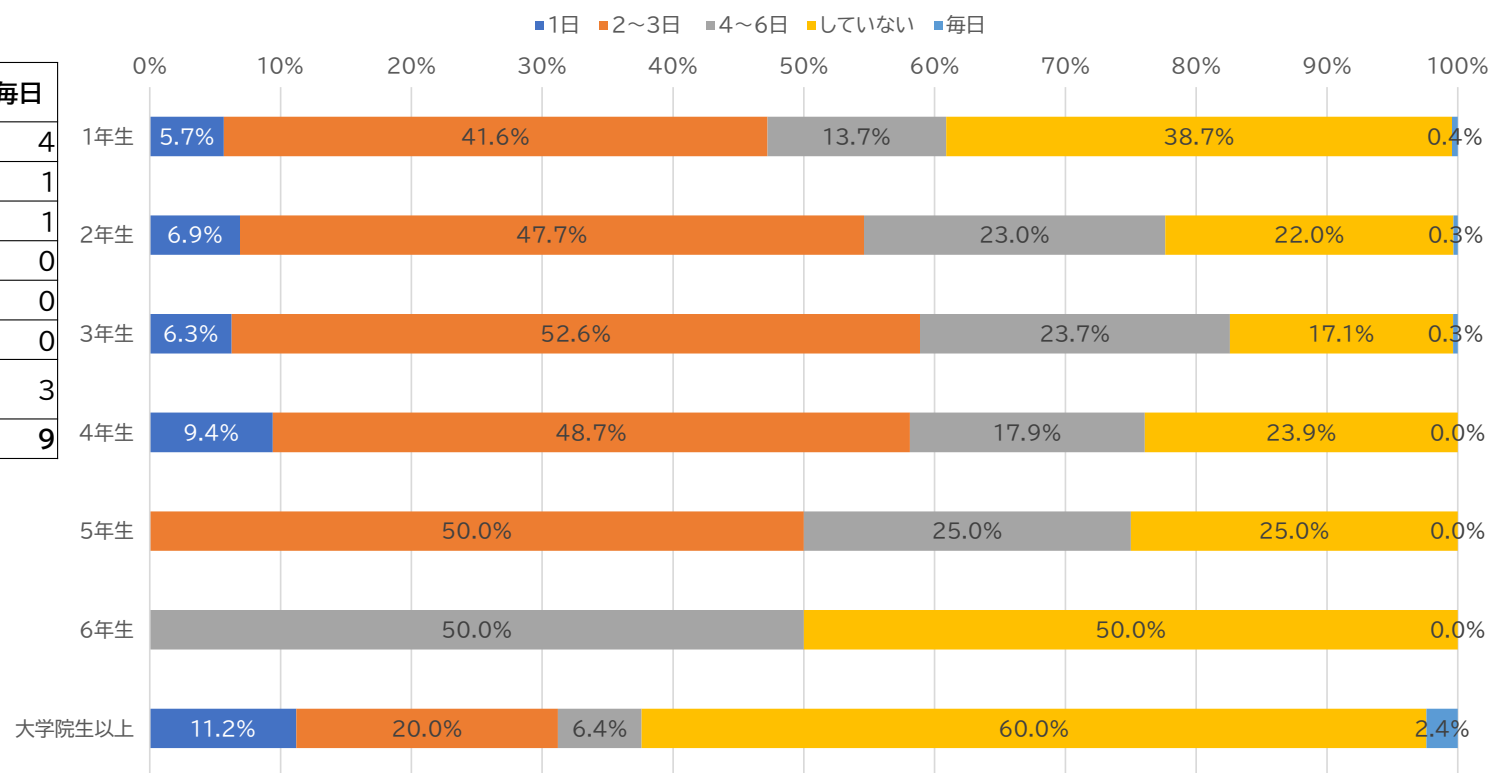


Q8 アルバイトは、週に何日勤務していますか。

▼「週2～3日」が最多。

▼「してない」の回答が30%を占める反面、「4～6日」の回答も17%を占めているため、
個々人によって異なる生活事情・背景がうかがえる。

学年	1日	2～3日	4～6日	して いない	毎日
1年生	51	374	123	348	4
2年生	21	145	70	67	1
3年生	18	151	68	49	1
4年生	11	57	21	28	0
5年生	0	2	1	1	0
6年生	0	0	2	2	0
大学院生 以上	14	25	8	75	3
■全体	115	754	293	570	9

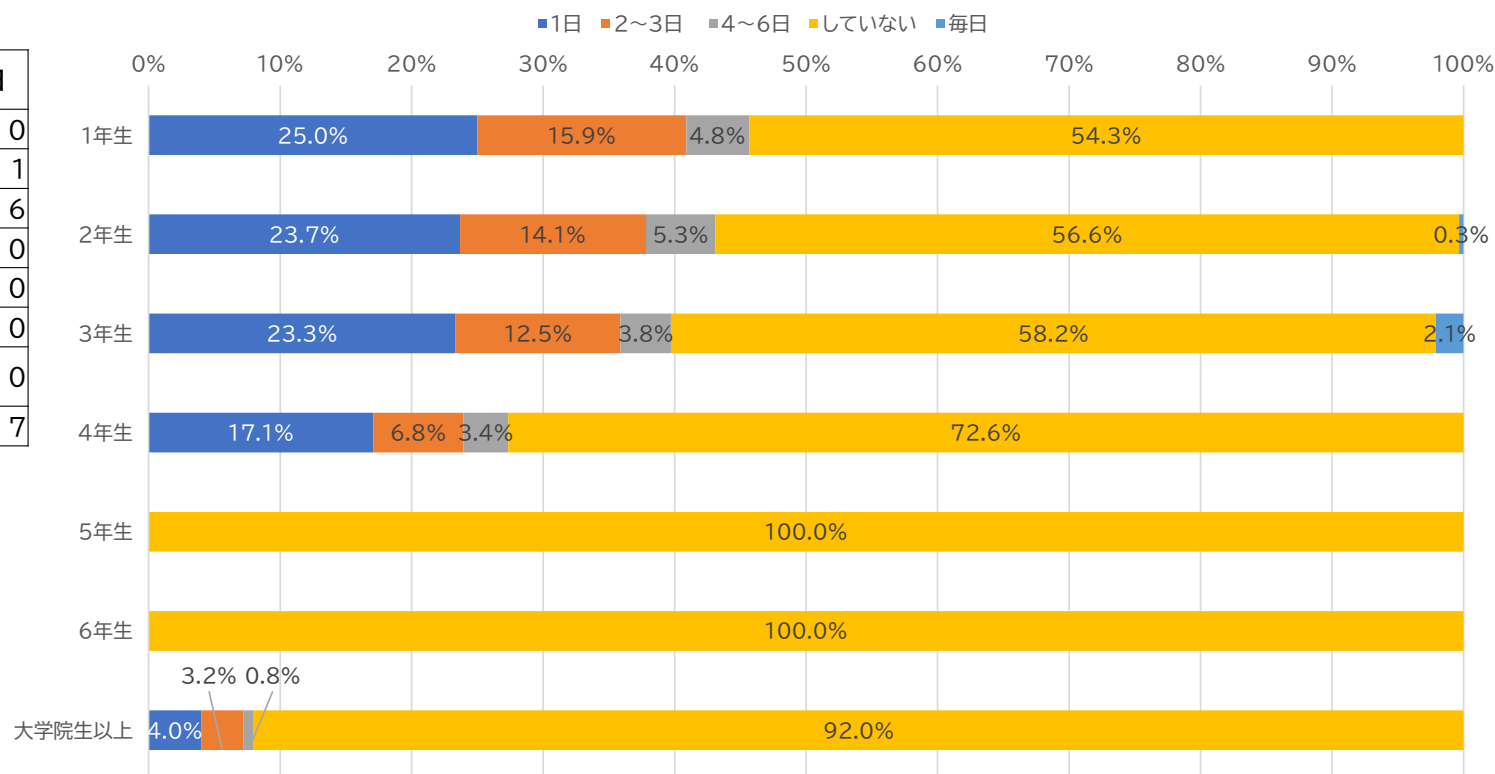


Q9 部活動、クラブ活動、サークルは、週に何日活動していますか

▼「入ってない」が最多。

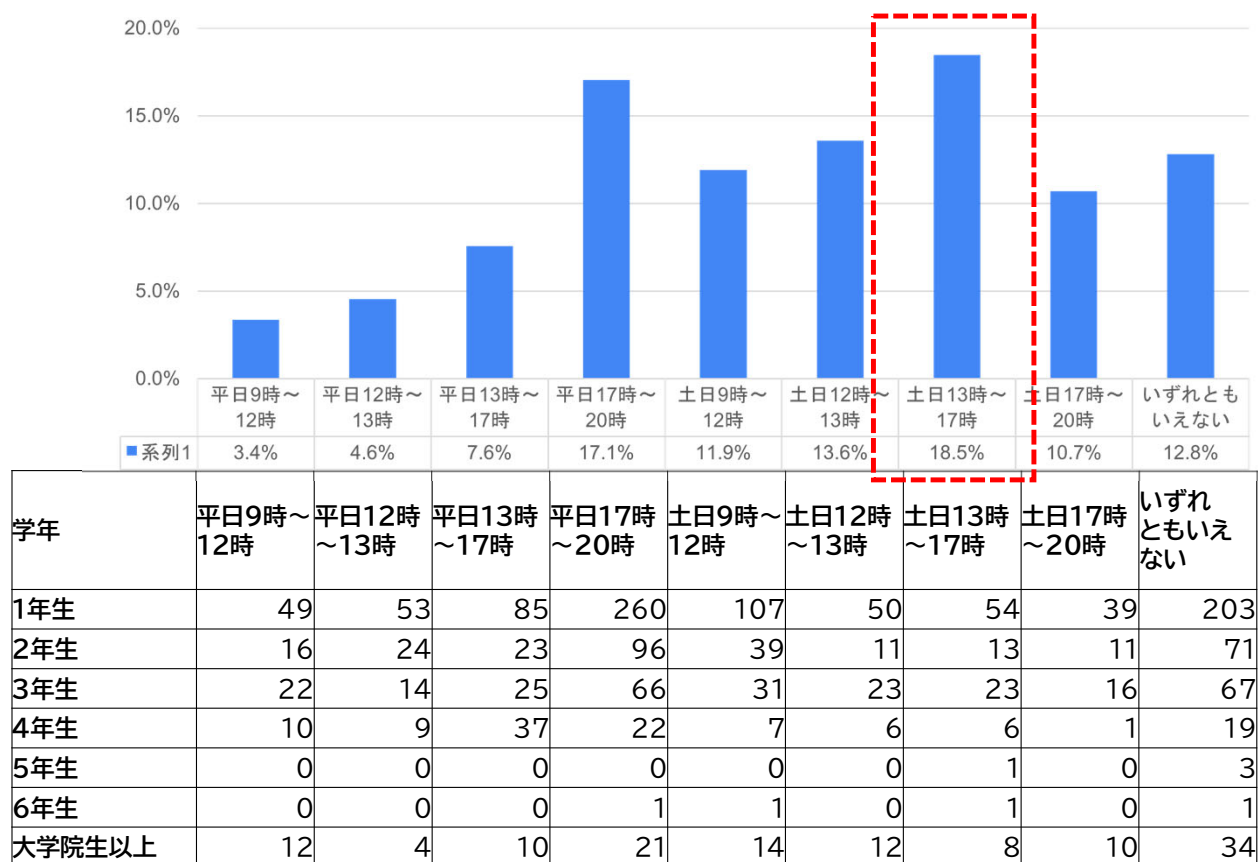
60%近くを占めていることから、授業以外では校外での活動が高いことがうかがえる。

学年	1日	2～3日	4～6日	して いない	毎日
1年生	225	143	43	489	0
2年生	72	43	16	172	1
3年生	67	36	11	167	6
4年生	20	8	4	85	0
5年生	0	0	0	4	0
6年生	0	0	0	4	0
大学院生 以上	5	4	1	115	0
■全体	389	234	75	1,036	7



Q10 授業以外の時間、学内外のイベントに参加しやすい時間帯はいつですか。 3つまで選んでください。

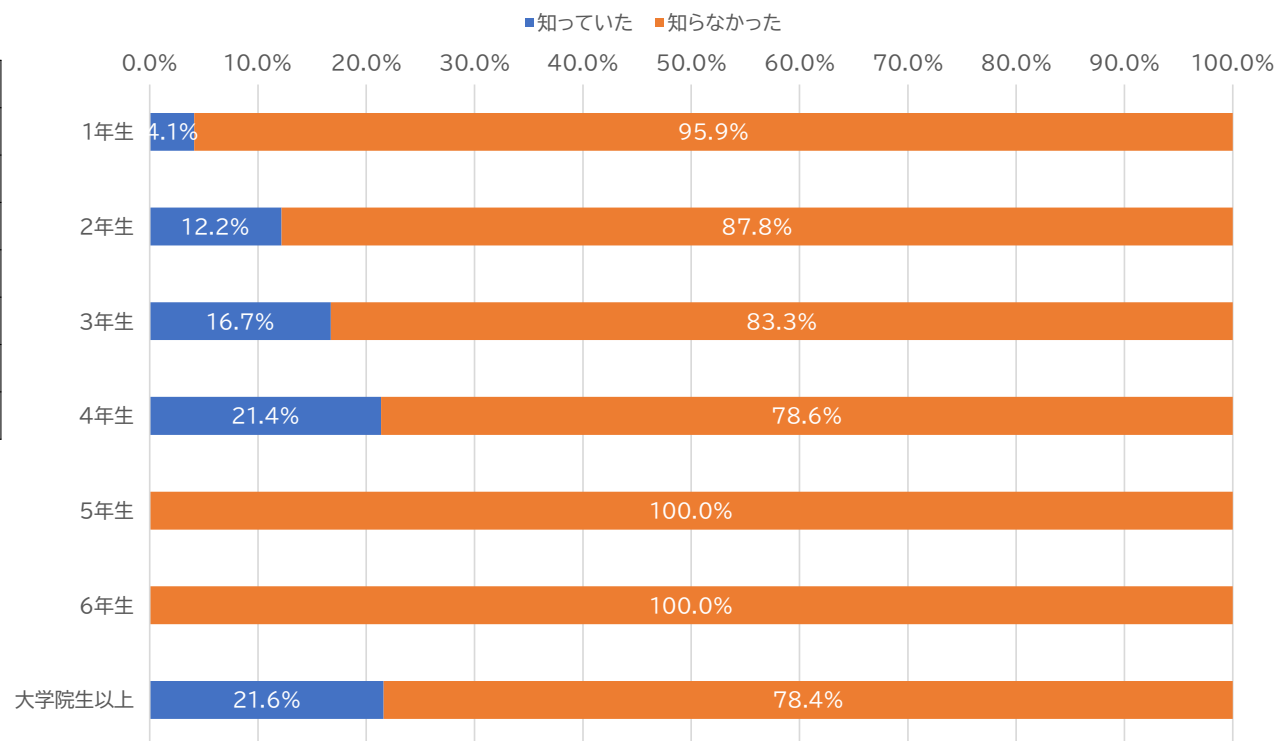
▼「土日13時～17時」「平日17時～20時」が最多。



Q11-1 アンケートに回答する前、大学コンソという組織を知っていましたか。

▼全学年で「知らなかった」が多数。周知施策検討の必要性が高い。

学年	知っていた	知らなかった	全体
1年生	37	863	900
2年生	37	267	304
3年生	48	239	287
4年生	25	92	117
5年生	0	4	4
6年生	0	4	4
大学院生以上	27	98	125



Q11-2 Q11コンソの認知度比較:2024年度調査との比較。

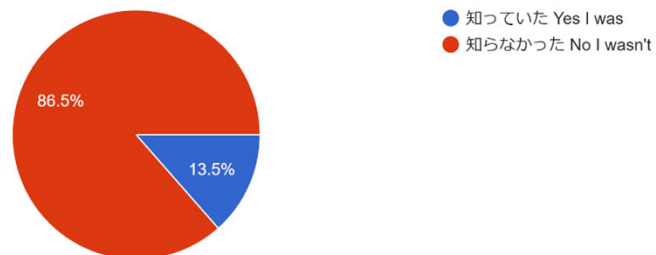
▼2024年から2025年の変化は、「知らなかった」86.5%→90% 「知っていた」13.5%→10.0%

▼軽微な差ではあるが、知らなかった層が増加していることから、認知向上のための新たな試みも一案となりうる。

<2024年度調査>

26 アンケートに回答する前、大学コンソという組織を知っていましたか Before answering this survey, were you aware of the Consortium of Universities in Hyogo?

1,506 件の回答



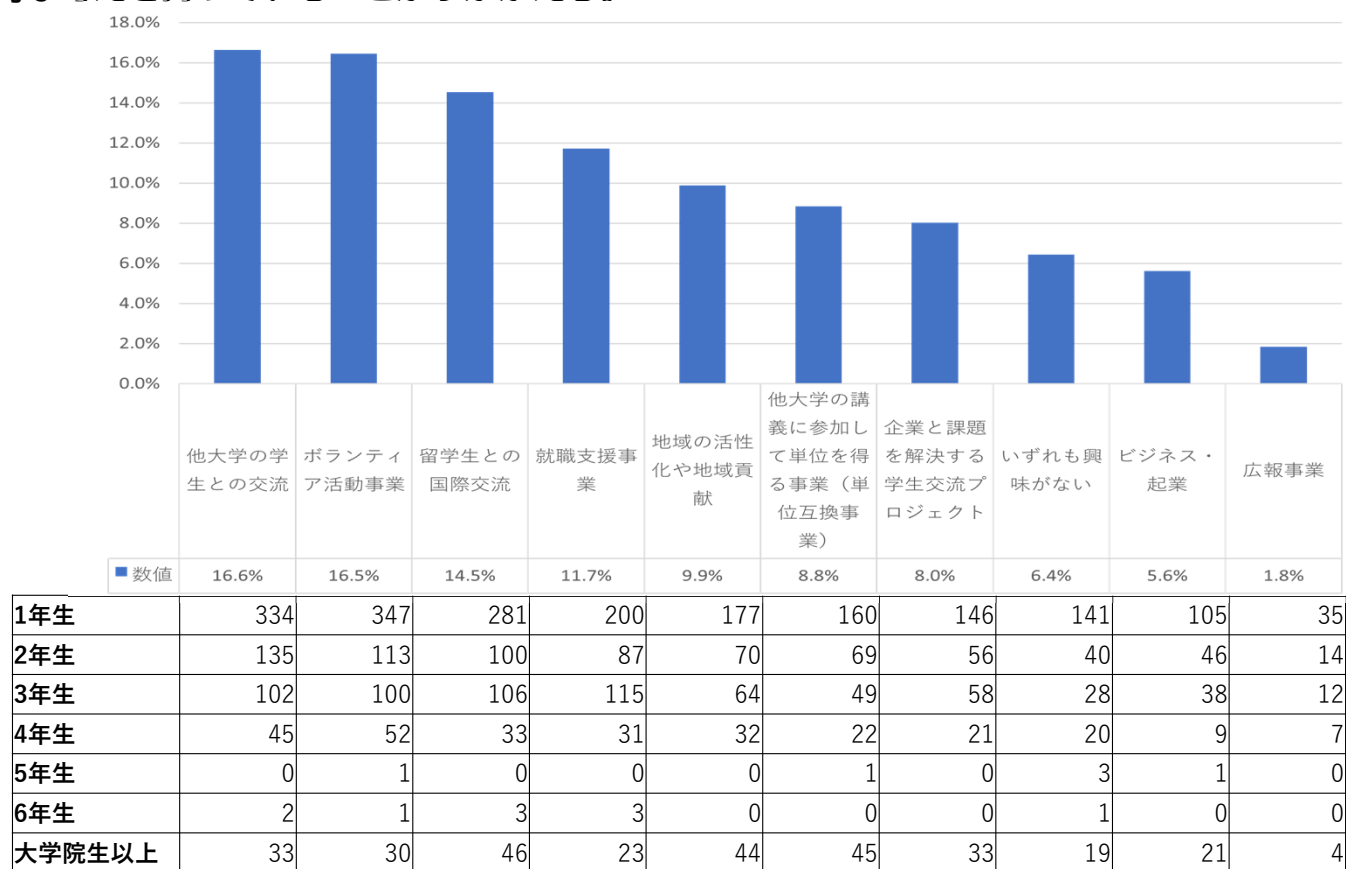
<2025年度調査>



Q12 「大学コンソ」は、あなたも参加できるイベントを主催しています。 あなたが興味があるものを3つまで選んでください。

▼「ボランティア活動事業」が19.7%で最多。

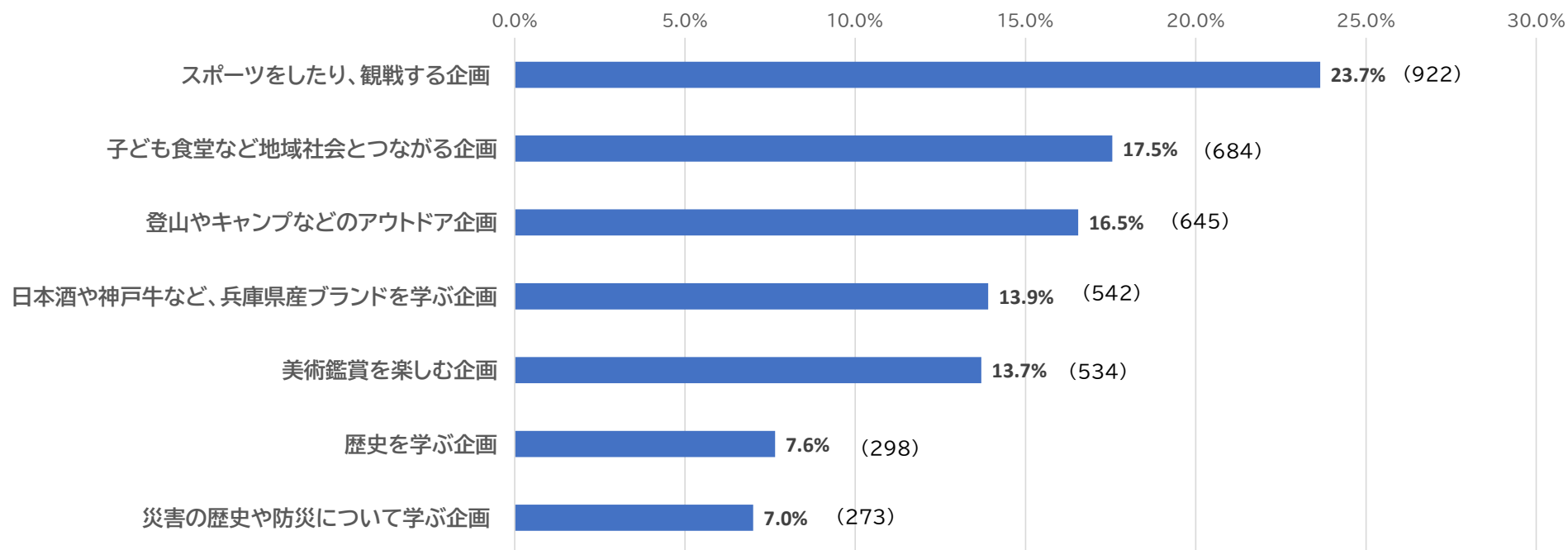
▼次点では、「留学生との国際交流」「就職支援事業」「地域の活性化や地域貢献」。
社会貢献に積極的な考えを持っていることがうかがえる。



Q13 他大学の学生や、外国人留学生と交流を深めるなら、どんな企画がいいですか。 興味があるものを3つまで選んでください。

▼「スポーツを楽しむこと、観戦」が最多。

▼次点では、「こども食堂など地域社会とつながる企画」「登山やキャンプなどのアウトドア企画」「日本酒や神戸牛など、兵庫県産のブランドを学ぶ企画」。他校との交流や社会貢献、地元産業への貢献を希望する熱意がうかがえる。

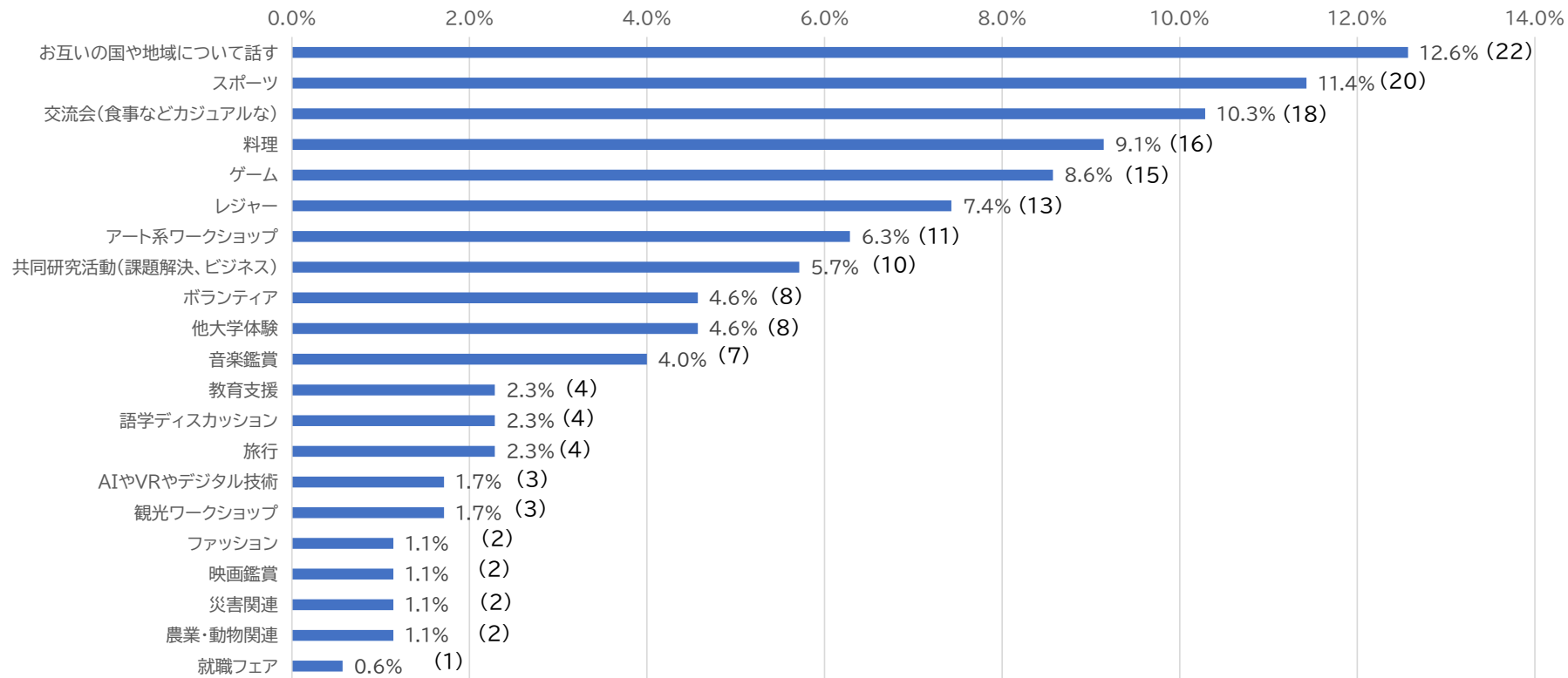


Q14 Q13の回答項目以外に、どんなイベントなら参加したいですか。 アイデアがあれば自由にお書きください。

▼「お互いの国や地域について話す」が12.6%で最多。

▼次点では、「スポーツ」「交流会」「料理」「ゲーム」等。

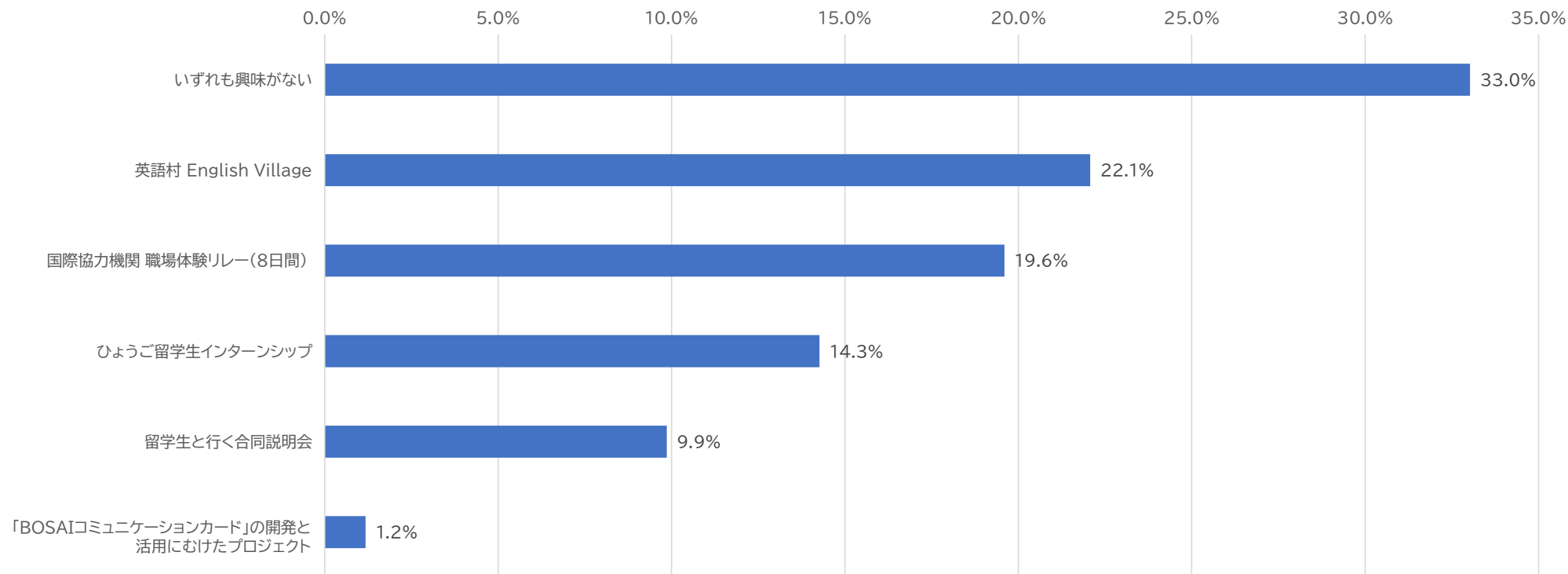
異文化交流やスポーツ、食を通してのコミュニケーション意欲が高いことがうかがえる。(昨年度と変化なし)



Q15 大学コンソが7月から9月にかけて主催する下記イベントに興味があるものがありますか？興味があるものを3つまで選んでください。

▼「いずれも興味がない」が33.0%で最多。

▼次点は、「英語村」「職場体験リレー」「インターシップ」

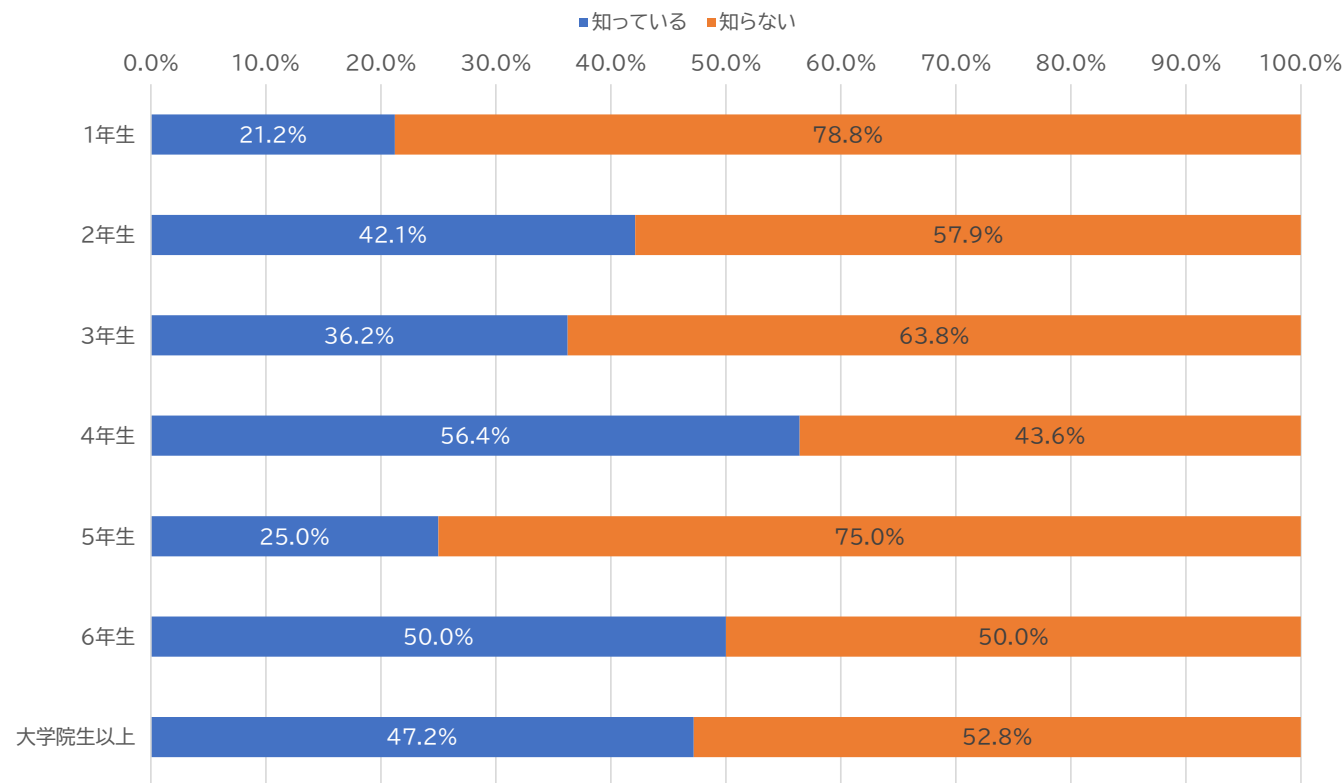


Q16 他大学の講義を履修でき、単位認定もされる「単位互換制度」を知っていますか。

▼全体で見ると「知らない」が「知っている」を上回っている。

4年生で唯一「知っている」が12.8%上回っている。卒業単位への関連から興味が高まっていると考えられる。

学年	知っている	知らない	全体
1年生	191	709	900
2年生	128	176	304
3年生	104	183	287
4年生	66	51	117
5年生	1	3	4
6年生	2	2	4
大学院生以上	59	66	125

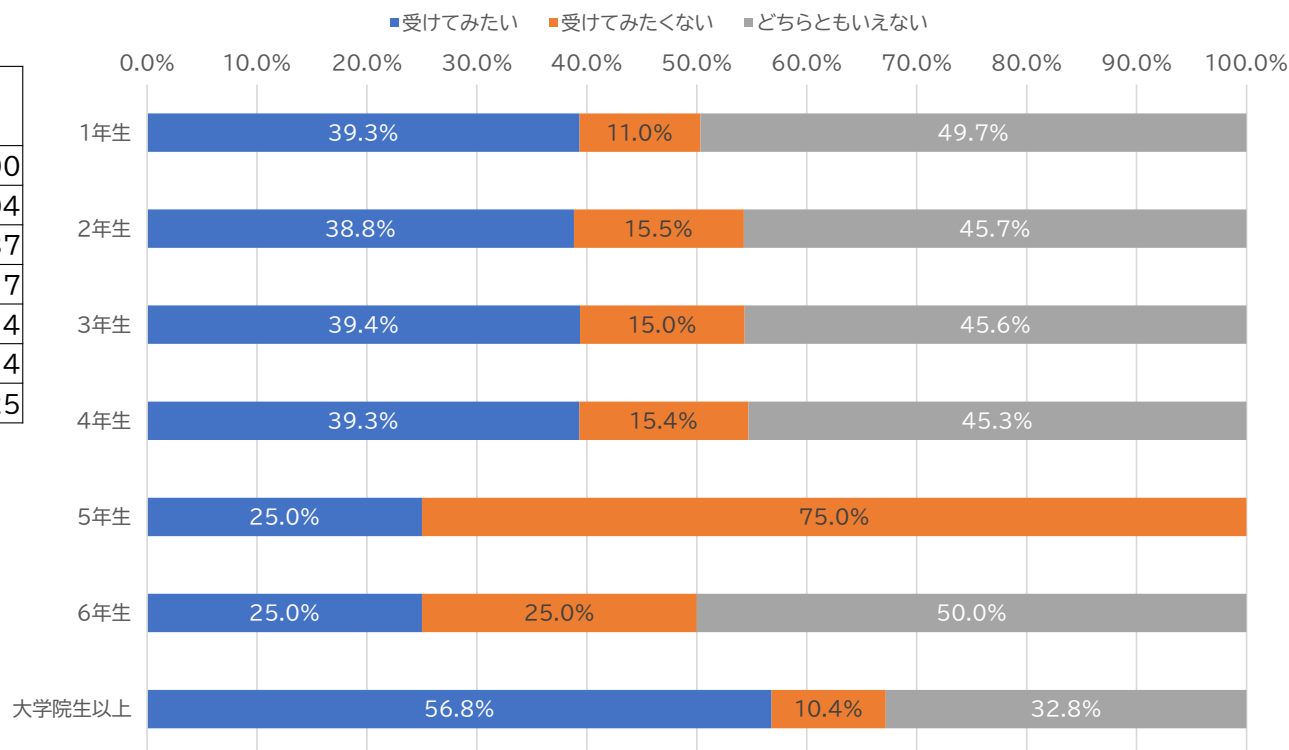


Q17-1 「単位互換制度」で他大学の講義を受けてみたいですか。

▼「受けてみたい」の最多は大学院生で56.8%。卒業単位取得を終え、時間的余裕からの回答がうかがえる。

▼「どちらともいえない」が1～4年生で半数近くにのぼっている。興味は持たれているものの、認知が広く行き渡っていないことからの回答がうかがえる。

学年	どちらとも いえない	受けて みたい	受けて みたくない	全体
1年生	447	354	99	900
2年生	139	118	47	304
3年生	131	113	43	287
4年生	53	46	18	117
5年生		1	3	4
6年生	2	1	1	4
大学院生以上	41	71	13	125



Q17-2 「単位互換制度」の興味関心度比較:2024年度調査との比較。

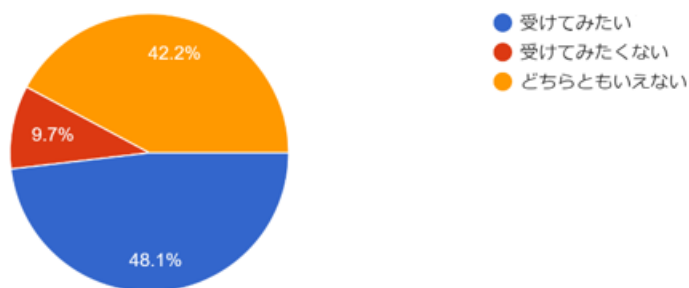
▼2024年から2025年の変化は、
「受けてみたい」42.2%→40.4%「受けてみたくない」9.7%→12.9%「どちらともいえない」42.2%→46.7%

▼「受けてみたい」との回答がやや減少した一方、「どちらともいえない」が増加していることから、
制度そのものへの理解や具体的なイメージの浸透によって、前向きな関心へつなげられる可能性も考えられる。

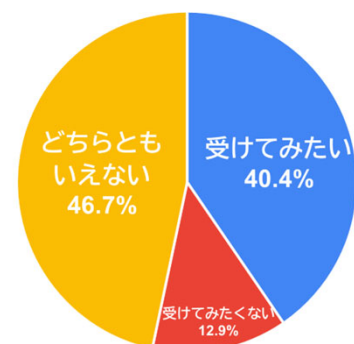
<2024年度調査>

10 「単位互換制度」で他大学の講義を受けてみたいですか

1,506 件の回答



<2025年度調査>



Q17-3 Q16「単位互換制度」の認知度比較:2024年度調査との比較。

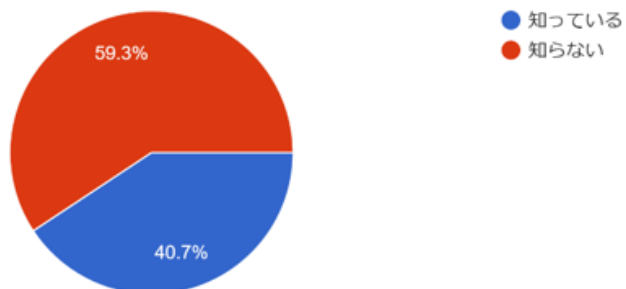
▼2024年から2025年の変化は、「知らなかった」59.3%→68.4% 「知っていた」40.7%→31.6%

▼軽微な差ではあるが、知らなかった層が増加していることから、学生により届く形での発信や施策検討がうかがえる。

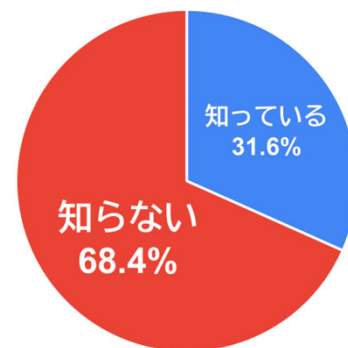
<2024年度調査>

9 他大学の講義を履修でき、単位認定もされる「単位互換制度」を知っていますか

1,506 件の回答



<2025年度調査>



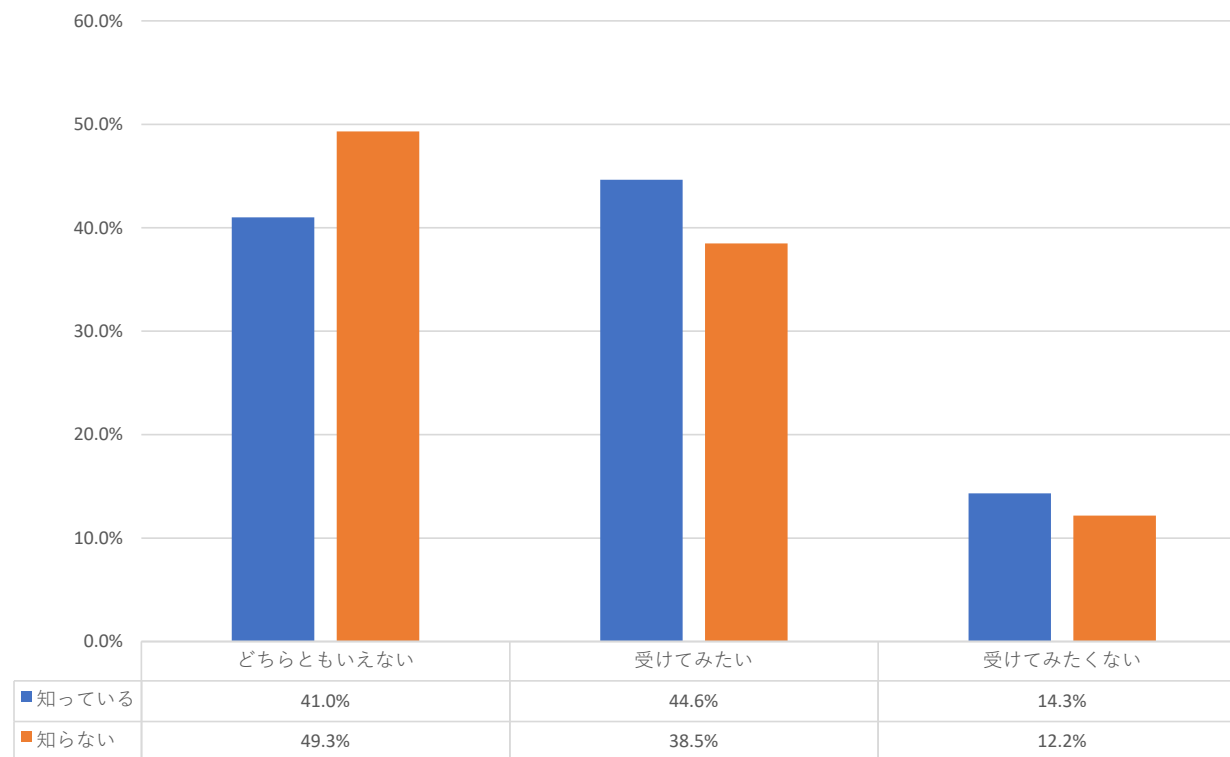
Q17-4 Q16×Q17「単位互換制度」の認知度と興味関心度の関係性。

▼「受けてみたい」と回答する割合が高い(44.6%)。

一方、「知らない層」でも約4割(38.5%)が関心を示しており、制度自体への潜在的ニーズは高いことが伺える。

「どちらともいえない」が認知層・非認知層ともに4～5割を占めており、最も多い回答となっている点が着目度が高い。

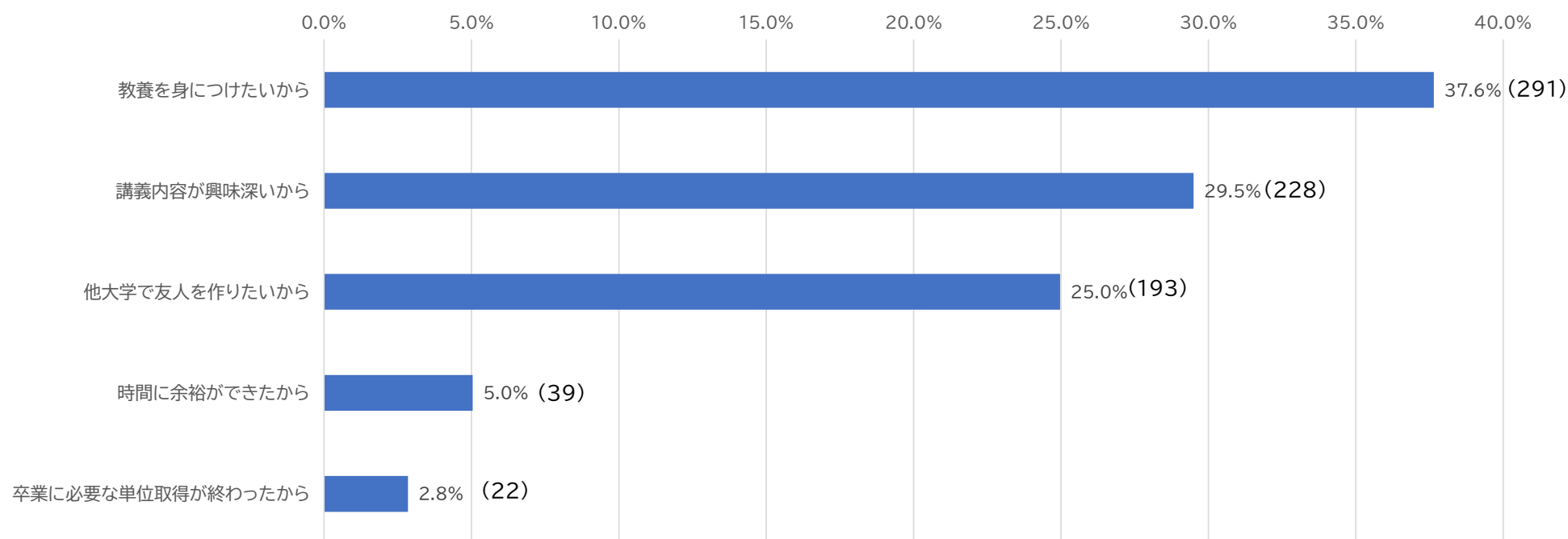
▼制度の認知と関心には一定の相関が見られる一方で、「どちらともいえない」という回答の多さは、情報の不足や制度の具体像が浸透していない現状を示唆していると考えられる。



Q18 Q17で「受けてみたい」と答えた人にお聞きします。それはなぜですか。 あてはまるものを1つ選んでください。

▼「教養を身に着けたいから」が37.6%で最多。

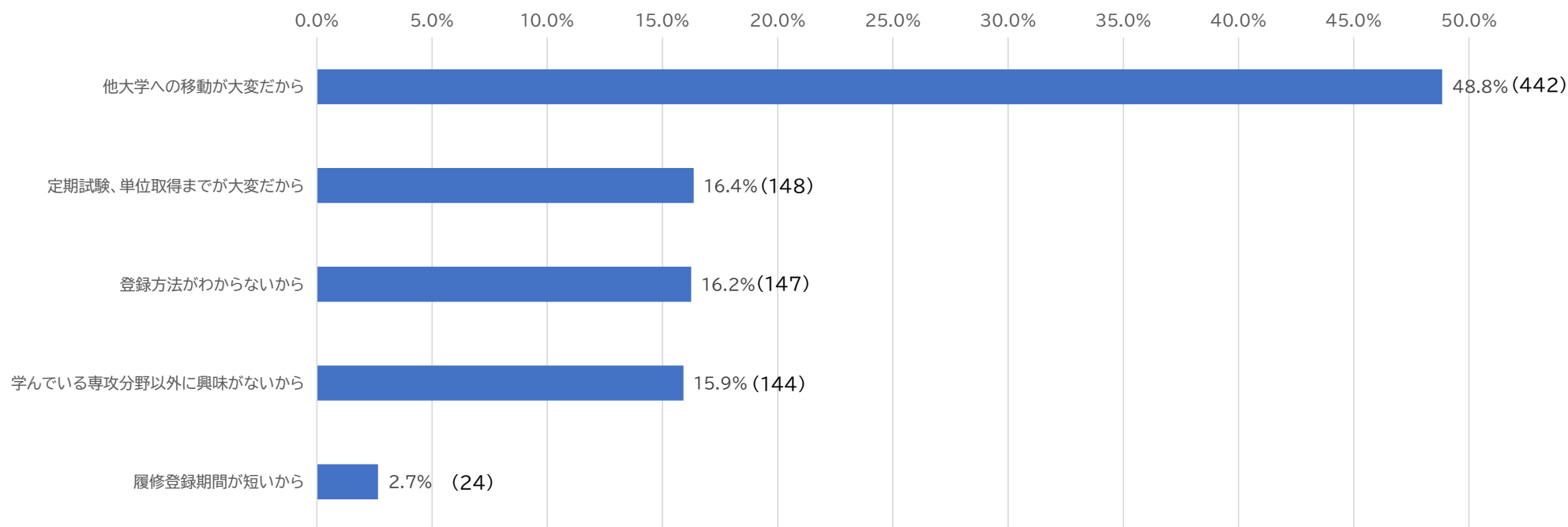
▼次点では、「講義内容が興味深いから」「他大学で友人を作りたいから」。
学習意欲にも対人コミュニケーションにも意欲が高いことがうかがえる。



Q19 Q17で「受けてみたくない」「どちらともいえない」と答えた人にお聞きします。 それはなぜですか。あてはまるものを1つ選んでください。

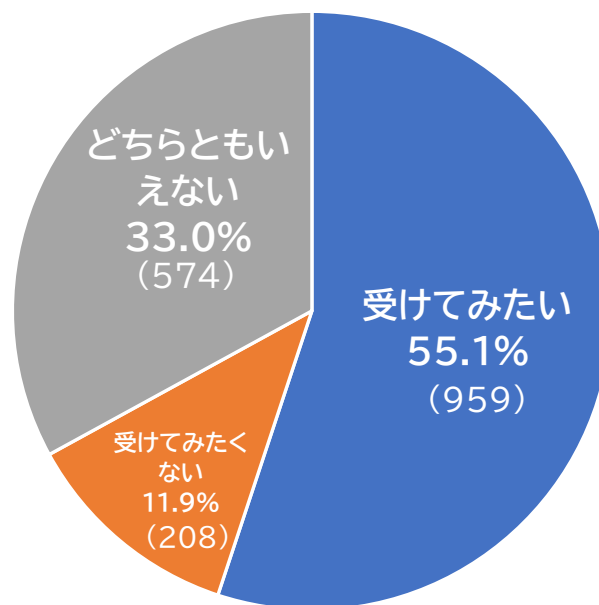
▼「他大学への移動が大変だから」が48.8%で最多。

▼次点では、「定期試験、単位取得までが大変だから」「登録方法がわからないから」。
時間的な都合が関係していることがうかがえる。



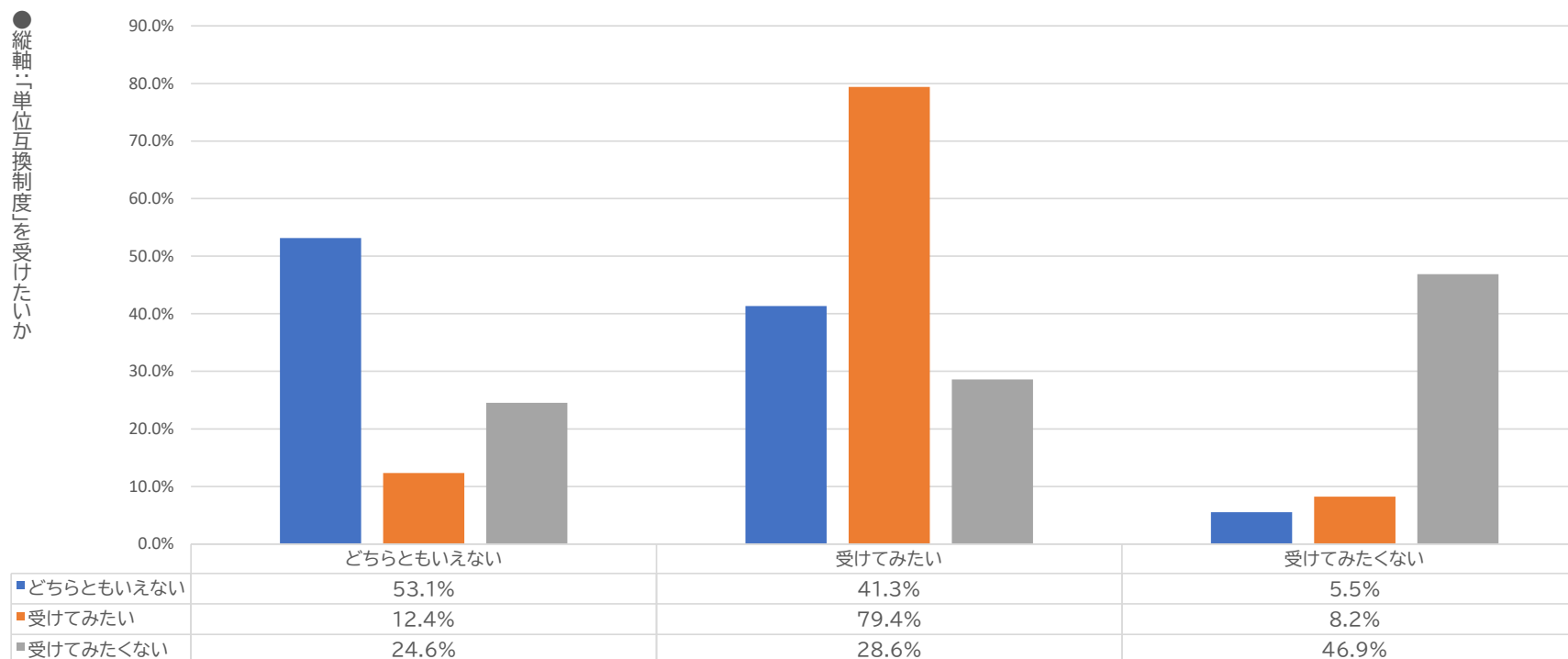
Q20-1 「単位互換制度」が、移動のないオンライン授業や、時間に縛られないオンデマンド授業なら受けてみたいですか。

▼「受けてみたい」が55.1%で半数を超えている。



Q20-2 Q17×Q20「単位互換制度」の認知度と受講形式の関係性。 (オンライン授業やオンデマンド授業)

▼「受けてみたい」層の約8割がオンライン形式に前向きな姿勢を示した。
さらに、「どちらともいえない」と答えた層でも半数以上がオンライン提供なら受講してみたいと回答しており、制度への関心が“提供形式”によって大きく左右されることが明らかとなった。
これらの傾向は、学びの形式の柔軟性が参加ハードルの低減や新たな関心層の掘り起こしに寄与しうることを示しており、今後の制度設計において重要な視点となる。(昨年度は)



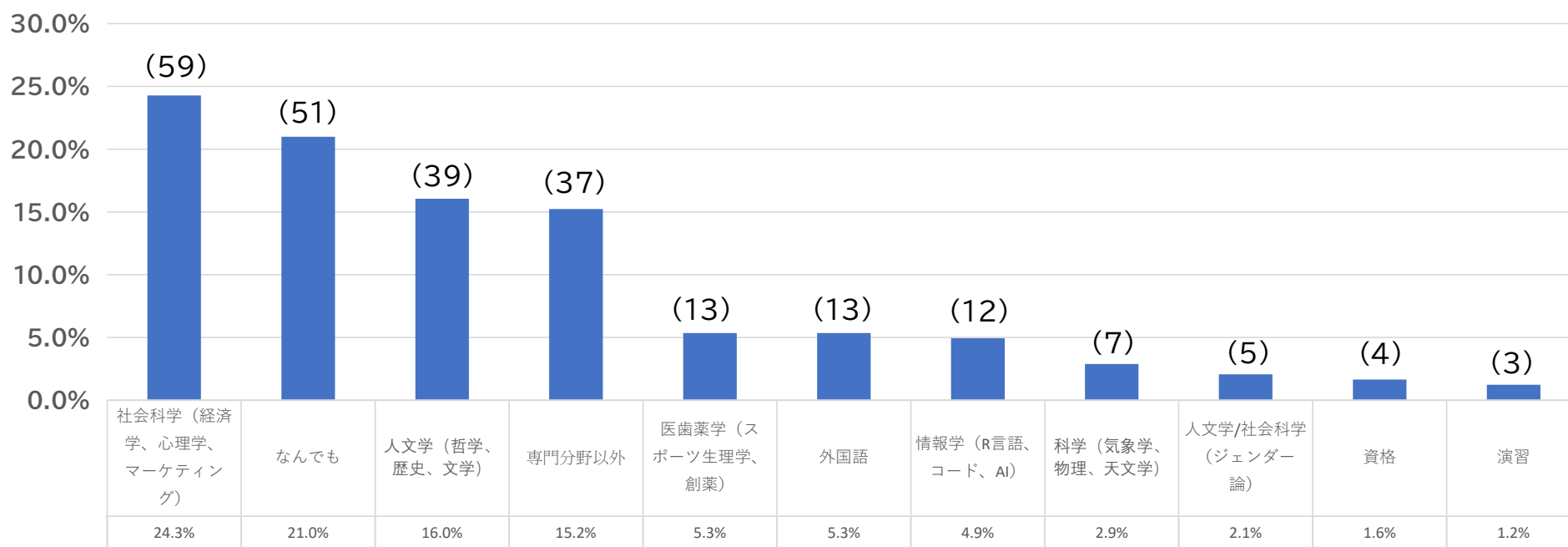
●横軸:「単位互換制度」をオンラインやオンデマンドなら受けたいか

Q21 どんな「単位互換制度」の講義なら、受けてみたいですか。自由にお書きください。

▼「社会科学」分野が24.3%と最多。

▼次点には、「なんでも(分野を問わない)」「人文学」「専門分野以外」。

人文系分野の希望が高いことがうかがえる。(昨年度は「社会科学」、「人文学」、「科学」の順)



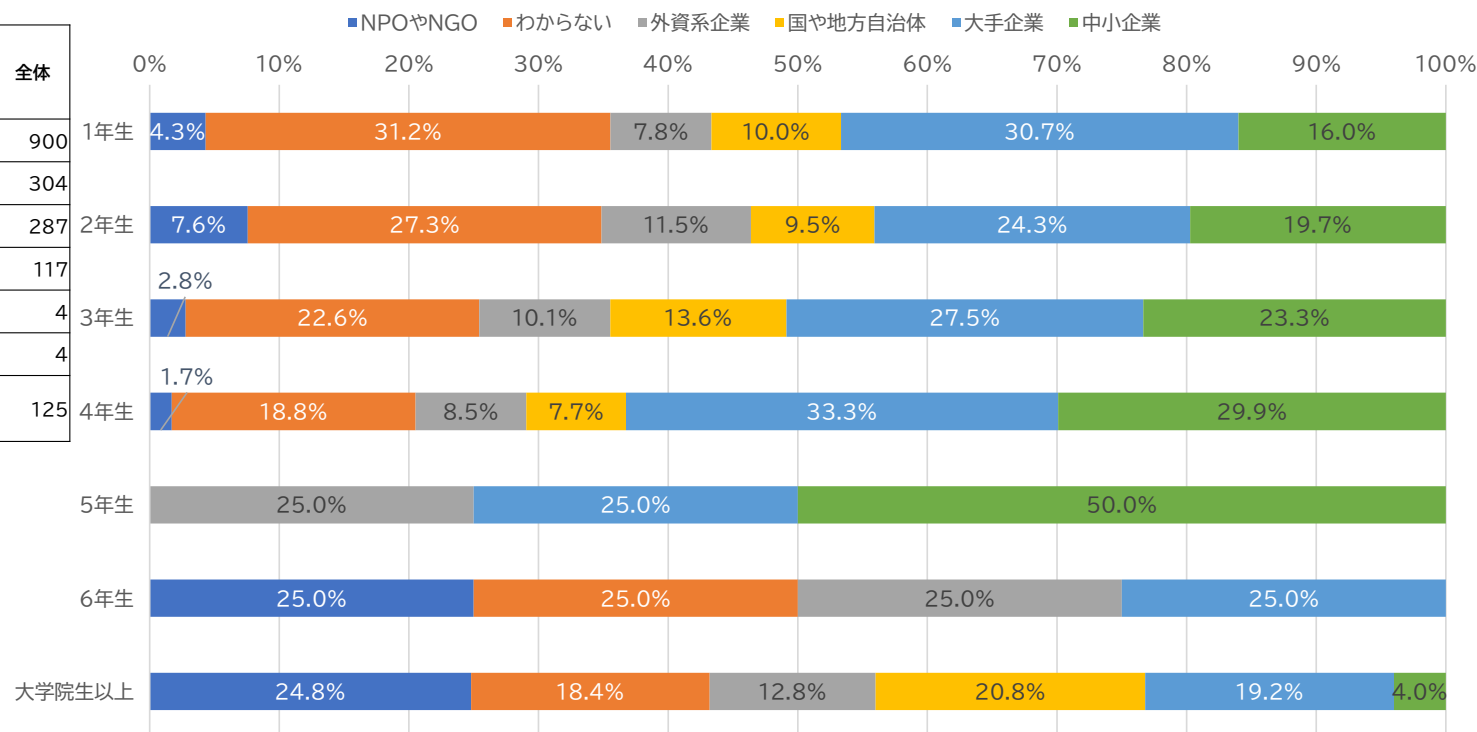
Q22 大学時代にインターンシップをするなら、どんな企業、団体を選びたいですか。 1つだけ選んでください。

▼1～4年生では、「大手企業」がどの学年でも最多。次点で「中小企業」。合算すると約半数の割合。

▼「わからない」は、ほとんどの学年で約2～3割の回答数。特に1～2年生が高い。

▼6年生や大学院生では、「NPOやNGO」が多く、目的意識や社会貢献度の高さがうかがえる。

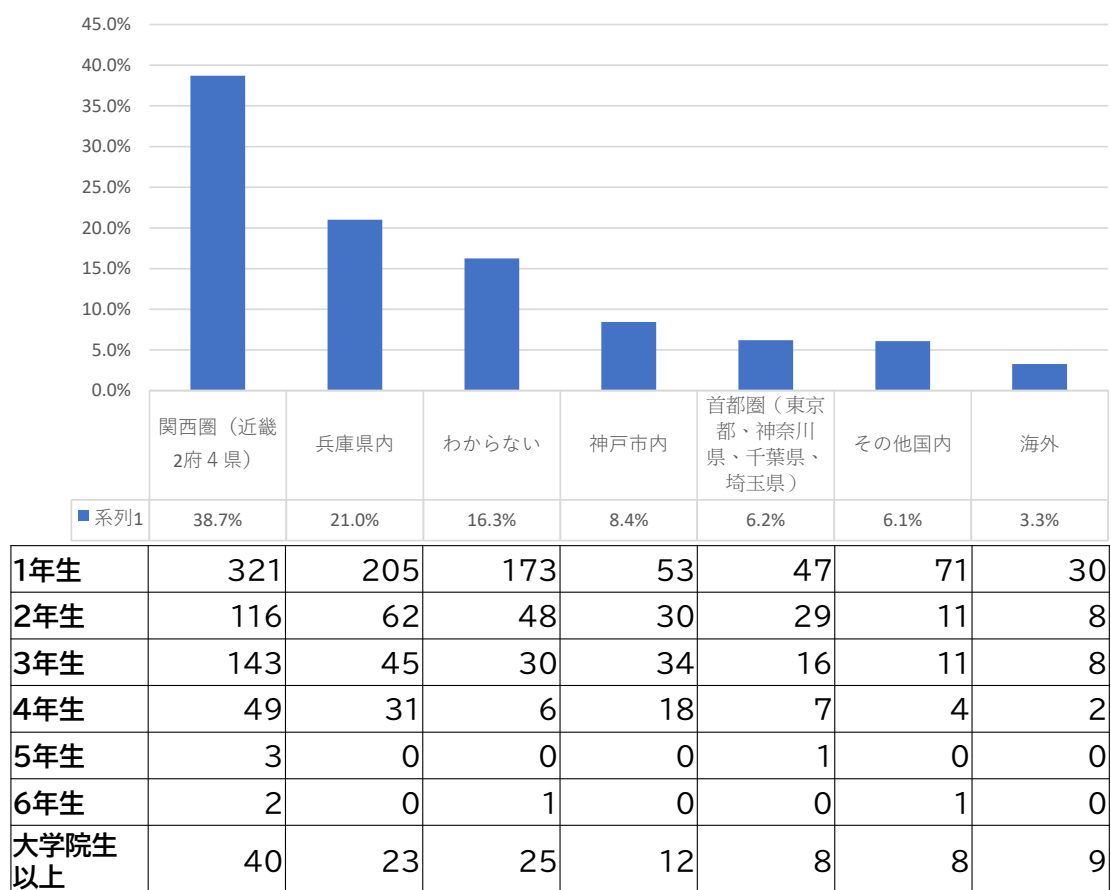
学年	NPOや NGO	わから ない	外資系 企業	国や地方 自治体	大手 企業	中小 企業	全体
1年生	39	281	70	90	276	144	900
2年生	23	83	35	29	74	60	304
3年生	8	65	29	39	79	67	287
4年生	2	22	10	9	39	35	117
5年生	0	0	1	0	1	2	4
6年生	1	1	1	0	1	0	4
大学院生 以上	31	23	16	26	24	5	125



Q23-1 就職先として希望する地域はありますか。1つだけ選んでください。

▼「関西圏」が38.7%で最多。

▼次点は、「兵庫県内」「わからない」「神戸市内」。地元圏内への貢献意欲が高いことがうかがえる。



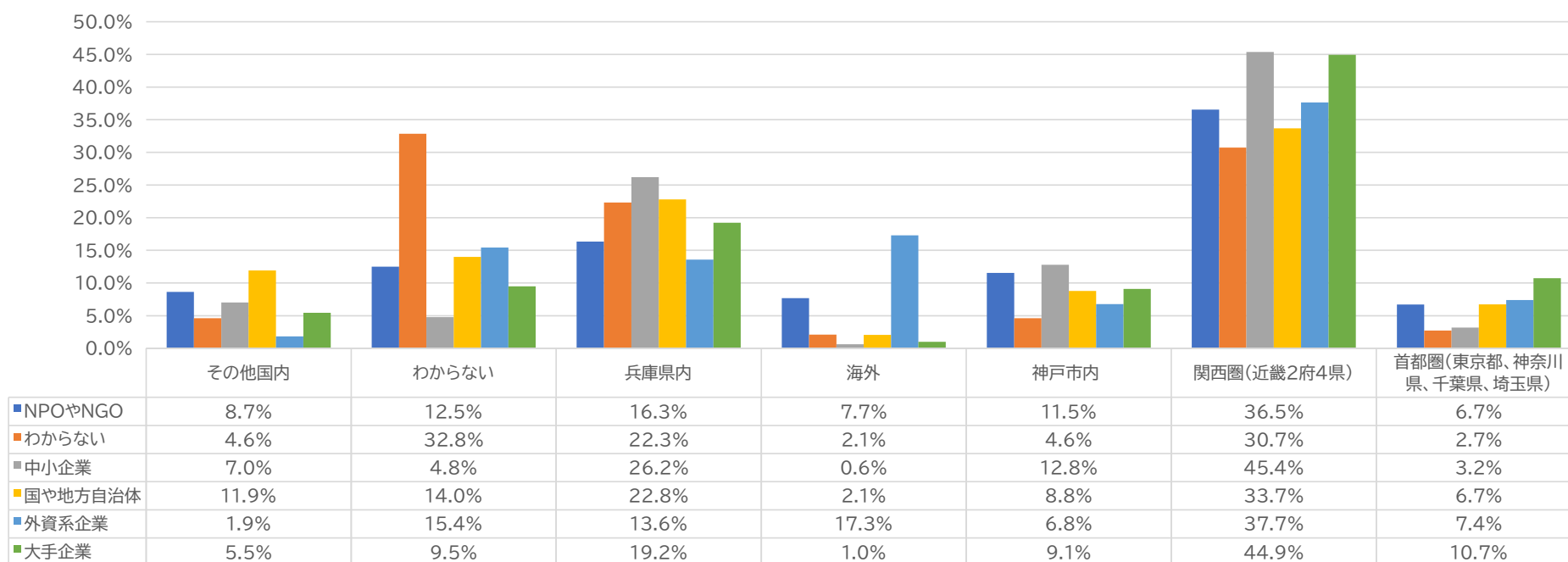
Q23-2 Q22×Q23インターシップの希望企業規模と希望就職先地域の関係性。

▼「関西圏(近畿2府4県)」は全体的に人気が高く、中小企業・大手企業・外資系企業など多様な選択肢への希望が見られた。加えて、「兵庫県内」や「神戸市内」では、中小企業や地方自治体、大手企業への志向が比較的高く、地元志向と安定志向が重なっていることがうかがえる。

▼一方、首都圏を希望する層はやや少数派であるものの、「大手企業」への希望が相対的に高く、都市部への就職においてはブランド志向や安定性を重視する傾向がうかがえた。

また、「海外」希望者の中では、NPO/NGOや外資系企業への志向が高く、社会貢献や国際的な活躍を意識する層の存在も見て取れる。

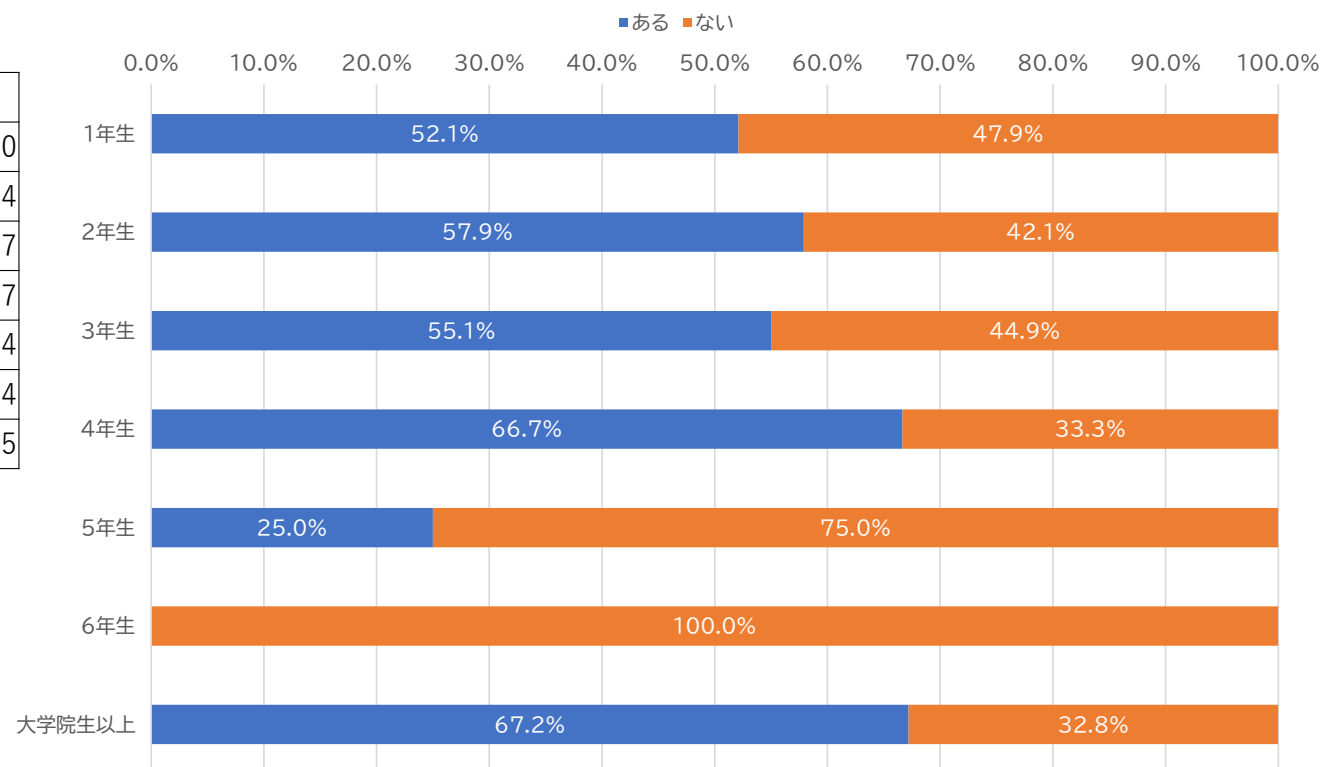
全体として、地域ごとに異なるキャリア志向が表れており、進路支援においてはこれらの傾向を踏まえたきめ細やかなアプローチが求められる。



Q24 ボランティア活動をしたことがありますか。

▼「ある」が最多は大学院生で67.2%、4年生で66.7%。卒業単位取得が終わり、時間的余裕からの回答がうかがえる。
1～3年生も半数以上が経験しており、社会貢献度の高さがうかがえる。

学年	ある	ない	全体
1年生	469	431	900
2年生	176	128	304
3年生	158	129	287
4年生	78	39	117
5年生	1	3	4
6年生	0	4	4
大学院生以上	84	41	125

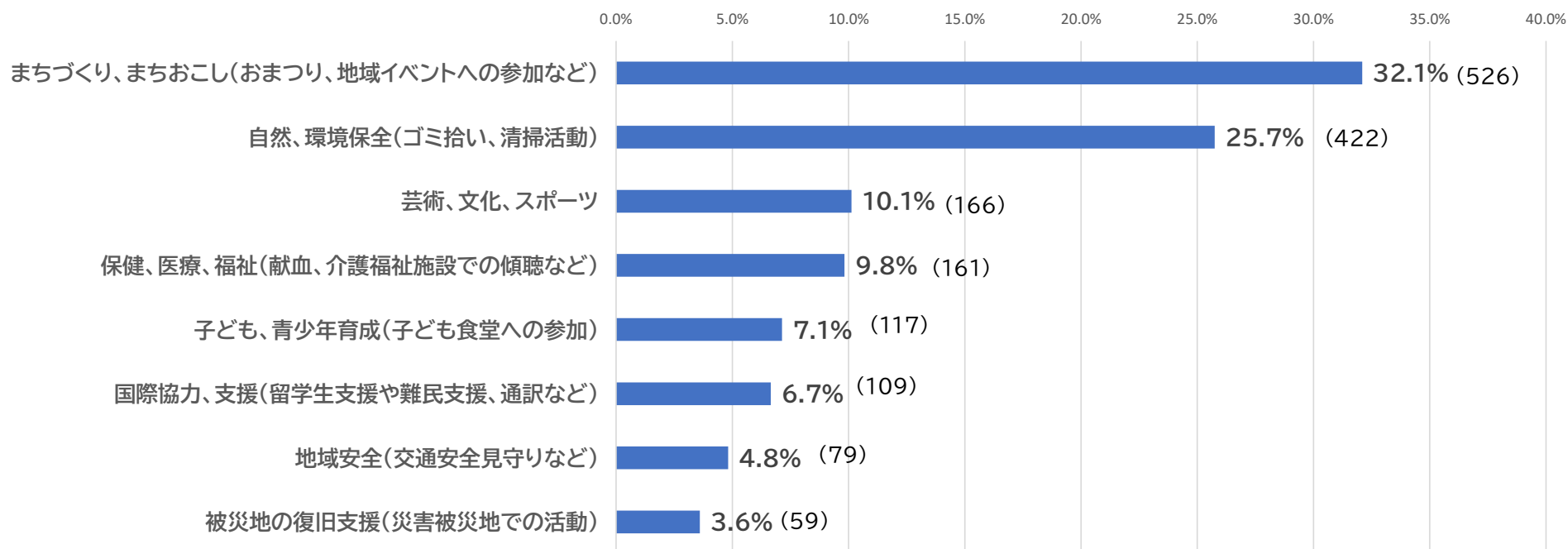


Q25 Q24で、「ボランティア活動をしたことがある」と答えた人にお聞きします。 どんなボランティア活動ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

▼「まちづくり・まちおこし」が32.1%で最多。

▼次点では、「自然・環境保全」「芸術・文化・スポーツ」「保険・医療・福祉」。

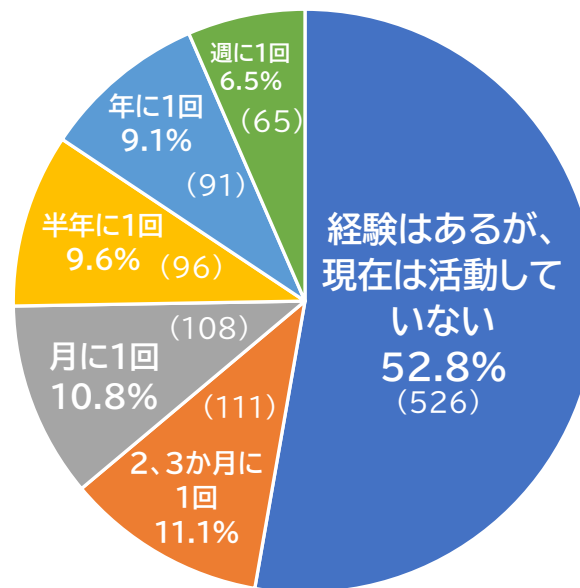
地元復興や環境活動、文化活動への社会貢献意欲が高いことがうかがえる。(昨年度は「まちづくり、まちおこし」、「自然、環境保全」、「子ども、青少年育成」の順)



Q26 Q24で「ボランティア活動をしたことがある」と答えた人にお聞きします。 ボランティア活動の頻度について教えてください。

▼「経験はあるが現在は活動していない」が52.8%で最多。

▼次点では、頻度はバラバラではあるものの、経験値は高いことがうかがえる。



【今回のアンケート集計結果からの考察】

■コンソの認知は依然として低く、2024年よりも「知らなかった」との回答が増加(86.5% → 90%)。

1年生から継続的に周知施策を講じていくことが重要であり、大学在学中のみならず卒業後の接点創出も視野に入れた長期的な関係構築が求められる。

■認知向上の施策として

① 教職員への理解促進:

教職員が学生に説明できる状態をつくるため、コンソの目的や役割を明文化し、共有することが不可欠。

② SNSや動画を活用した広報:

学生のSNS利用率が高いこと(平均2～3時間)が判明しており、短尺動画やストーリーズ等、時代に合った手法が有効。

■学生の「期待」と「困りごと」には、「学業」「就職」「金銭面」が共通項として浮上。

これら3点に対する支援強化が、学生満足度向上とコンソの存在価値訴求の双方に寄与する可能性が高い。

■イベント参加の動機は、制度的な支援(単位互換等)よりも「人と関わる・社会とつながる」タイプ(ボランティア・交流系)への関心が高い傾向。特に「人間関係の悩み」を持つ学生が、交流イベントに興味を示しており、「不安」→「興味」→「参加」へと導く動線設計が重要と考えられる。

■「単位互換制度」は依然として認知・利用意向ともに課題あり。

「受けてみたい」層の中でも、オンライン形式へのニーズが高いため、形式の柔軟性を打ち出すことが新たな関心層の獲得に有効。

■学生の属性(アルバイト・サークル所属有無など)と心理的安定や社会参加意識には相関が見られた。

個々の生活スタイルに合わせた“ゆるやかな関与”を促すイベント設計や支援体制が、今後のコンソ施策における鍵となる。